

登録コード:MH308200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	理学療法評価法Ⅱ【20M以降】 Assessment and Evaluation in Physical Therapy Ⅱ		
担当教員	北川 孝 小宅 一彰・中村 慶佑		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法専攻/2年 前期 水曜・2時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科運動療法実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	主に神経学的検査の正常と異常を鑑別し、理学療法プログラムを検討することができる。脳神経、筋緊張、反射、バイタルサイン、筋力、小児疾患、嚥下機能、構音障害・失語症、高次脳機能障害・認知機能にかかわる検査の評価結果から問題点を抽出し、理学療法プログラムの立案に結びつけていくための思考過程について理解・説明ができる。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	主に神経学的検査を中心とした各種検査等を用いることで、疾患の病態の把握につなげる。脳神経、筋緊張、反射、バイタルサイン、筋力、小児疾患、嚥下機能、構音障害・失語症、高次脳機能障害・認知機能にかかわる検査の目的・方法を理解し、必要に応じて一部を実際に行えるようになる。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	他職種も行う検査を学ぶことで共通言語を理解し、相互の情報交換につなげる。
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	検査・測定手技の実践においては、模擬患者の背景情報を考慮した適切な接遇とリスク管理を考慮できる。 臨床問題解決過程における思考過程について説明できる。社会で派生する多様な健康問題に対して、理学療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探究心と、対象者の課題に応じた安全で効果的な理学療法介入の実践に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	複数の教員によるオムニバス形式で、脳神経、筋緊張、反射、バイタルサイン、筋力、小児疾患、嚥下機能、構音障害・失語症、高次脳機能障害、認知機能の検査に関する知識や、医療面接の進め方、推論とリスク管理の方法について、講義と一部実技演習を行います。 本授業は、1年次に学んだ「系統解剖学」、「生理学」、「病理病態学Ⅰ」、「生理学実習」、「運動学」、「機能触診解剖法」の発展科目に位置付けられ、2年次前期の「理学療法評価法Ⅰ」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、2年次後期に学ぶ「臨床神経学」、「理学療法評価法実習」、「高次脳機能障害学」および3年次前期で学ぶ各種疾患別理学療法における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の臨床現場における理学療法士としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回（4月15日）評価法 総論（小宅） 第2回（4月22日）脳神経の検査法①（中村） 第3回（4月30日）脳神経の検査法②（中村） 第4回（5月13日）機器を用いた筋力測定（北川） 第5回（5月20日）医療面接の進め方（北川） 第6回（5月27日）嚥下機能の検査法（外部講師、内藤） 第7回（6月 3日）バイタルサイン（北川） 第8回（6月10日）【中間試験】（北川） 第9回（6月17日）筋トーン（緊張）検査（北川） 第10回（6月24日）深部腱反射・表在反射・病的反射（北川） 第11回（7月 1日）構音障害と失語症の検査法（外部講師、内藤） 第12回（7月 8日）高次脳機能障害、認知機能検査（外部講師、内藤） 第13回（7月15日）推論、リスク管理①（小宅） 第14回（7月22日）推論、リスク管理②（小宅） 第15回（7月29日）推論、リスク管理③、プレゼンテーション、授業アンケート（小宅） 第16回（8月 5日）【期末試験】（北川）		
授業の進め方	本授業は、検査法に関してパワーポイントスライドや教科書に準じた講義と、学生同士のグループワークに基づいて進めていきます。必要に応じて一部の講義では、臨床場面を想定した評価を学生同士が2人1組となって実際に行うことによって、実践的な評価技術の修得を図っていきます。		
テキスト、教材、参考書	教科書 1. 理学療法評価学 第6版補訂版（金原出版） 2. ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版（南山堂）		

成績評価の方法	中間試験，プレゼンテーション，期末試験の結果に基づいて，総合的に評価します。総合的評価の配分は，中間試験40%，プレゼンテーション20%，期末試験40%の配分比率で合計したものを最終評点とします。中間試験では第1回～第7回までの講義内容の理解度を，期末試験では第9回～第15回までの講義内容の理解度を，それぞれ確認します。
成績評価の基準	最終評点による成績の評価の判定基準は，下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 60点未満：不可 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」，応用問題が解ければ「やや上にある(良)」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある(優)」，例題よりもかなり難しい応用問題が解ければ「卓越している(秀)」と判定されます。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 次回の授業で学習する内容について，最低限，教科書の該当範囲には目を通してください。すでに履修した内容や教科書に書かれている内容については，適宜授業中に質問します。 【事後学習について】 授業中に前回の授業で学習した内容を質問することがあります。円滑に授業を進行するために，学習した内容は整理したうえで，次の授業に臨んでください。 実技については，授業時間外に各自で練習時間を設けてください。検査スキルを向上させる最良の方法は，練習を反復することです。 本授業の単位取得には，45時間の学習が必要であるため，以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋事前・事後の学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 ※以上の自己学習時間を考慮して，事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	2年後期から始まる理学療法評価法実習では，実際に患者さんに対して，これらの評価をすることになります。相手が実際の臨床場面における患者さんであると想定して，真剣に口頭での説明や評価を実施することが，皆さんの臨床能力を高める上での重要なポイントとなります。 質問への対応：北川 孝 tkitagawa@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメールで希望日時についてご連絡ください）